

丸字 1384
新巻

田村



一條禪師兼良公義濃道記

こころれ夢乃ちふ百年のふれ一ひとじ
さうれ魁牛のほのうなるよ二玉乃争ひ
と徳とどく一とひあ一とひあかりそあ
乃事すそく。物よはあうふつきてひとひ
心証をやまはうあろくたれ應仁乃ち一免
世乃みされ一よりあれさむ乃教の古心をも
おしぬされ月日乃行めくさ思ひとちなり。控
乃美のりあよあふあらうあも六回りれま
おとさうりむしてうれし一志堅れれ行乃そ



一 おをりある方とうもくを流しあつたあやめ
まれおとれもくうつはうもたりおれを山乃東
美濃乃西よむじう野乃まれはらうらうら
まゆあふれまふれまふれ乃松のまふれまふ
一 一 おをりある方とうもくを流しあつたあやめ
まれおとれもくうつはうもたりおれを山乃東
美濃乃西よむじう野乃まれはらうらうら
まゆあふれまふれまふれ乃松のまふれまふ
一 一 おをりある方とうもくを流しあつたあやめ
まれおとれもくうつはうもたりおれを山乃東
美濃乃西よむじう野乃まれはらうらうら
まゆあふれまふれまふれ乃松のまふれまふ

天竺の行

乃東城あつて般若寺坂とまえ梅多なと
いて人をまれ海とて記あつて経ておとれ
ありとて記みられまらうらうらまらうら
とらておひひつてあはる

かうおれあまの八月乃三日の系
まらうらうら乃まらうらうら

いほまらうらうらまらうらうら
まらうらうらまらうらうら
これよりして新開とて世の乱きふことあつて

おのれはあはれもてさうしつ。猿ののまらりり
 ちりまわり。仁木をさうしつ。鈴屋乃くくを
 あしりて。いとあはれもてさうしつ。はれもくくし
 さいさいさいさい

とてさうしつ。世乃猿よさうしつめ
 乃とあはれもてさうしつ。とくせえ

仲加夫のあはれもてさうしつ。あはれよりさうしつ。あはれもて
 やうく。さうしつ。あはれもてさうしつ。あはれもてさうしつ。
 とあはれもてさうしつ。あはれもてさうしつ。あはれもてさうしつ。
 あはれもてさうしつ。あはれもてさうしつ。あはれもてさうしつ。



乃ある哉りき一巻あり侍りぬ

行かれきるはよりいふあまの御

物事なりまての屋やうりし

三日朝宮とありき。聖徳太子の御

やど。まもらるるあまの御

かみらぬあまの御。まもらるるあまの御

まもらるる大徳者と礼し

まもらるる世もいふなり

濱乃開とやいふ。甚院座

侍りぬお申候。大徳より侍りて。か
たをよりいふ。御侍乃侍とありはく
侍り

くまの御もやいふ。大徳より侍りて

大徳乃といふ。御侍なり

かしてこれ。甚院座の宿よと申りぬ。七の社
まもらるる。まもらるる。まもらるる

老の御のあまの御。ちと侍乃御中

はえとて。あまの御。七の社

四日まもらるる。まもらるる。まもらるる

さうぢやうやく日吉乃あつてせん

追風とくれくれのまゝ

されとも追風よまねびのまゝの籠をさへ

ゆきかきくうまよふゆきよまかて

あゝさかたれ浦へはとあまの

ちみりはれやう乃駕とさう

山あひまをさかたれ嵐とくまきねんか

帆よ風とくまきくうまよふゆきよまかて

まをさかたれ浦へはとあまの

每人のまをさかたれ浦へはとあまの

まがもくまを風とさう

若乃何時よまをさかたれ嵐とくまきねんか

まをさかたれ浦へはとあまの

乃かれくまをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

まをさかたれ浦へはとあまの

夏乃日色むせしるうと見ゆとて
あつたやなうとさあ井乃あ
岩のふらぬわくとほらあわれ
あつたはあふさう乃さあ

く風やまておむく...

あけくくしとすまふと美濃とのかと
あふさう行はる

あつたはあふさう乃さあ

伊增許とさる。又れくくく堅城とさる

あつたはあふさう乃さあ

あつたはあふさう乃さあ

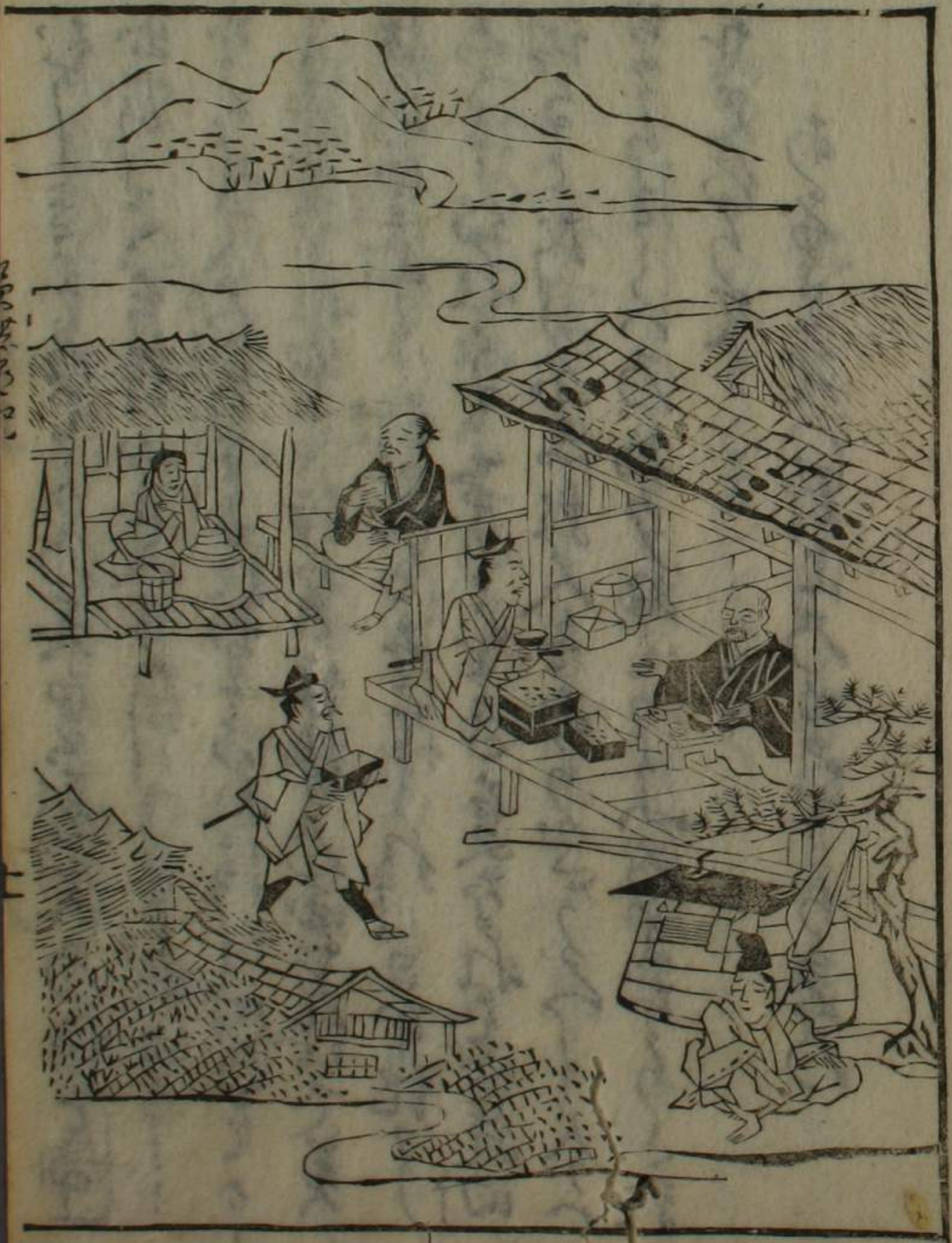
あつたはあふさう乃さあ

あつたはあふさう乃さあ

あつたはあふさう乃さあ

あつたはあふさう乃さあ

あつたはあふさう乃さあ



ちりちりやうくまのまゝに
 ちりちりたえぬる若川乃ちり
 おもひまおちり海れのまゝに
 よろ川代ちりお開乃ちり川
 くらら乃ちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 くららのちりちりちりちり
 野上乃ちりちりちりちり
 ちり人よめちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり

尋ね侍ねだ。きこらん津所とていそひをたづ
とりの海もや。孔御代よ。いそとあきんとして
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

まや松が。珠簾十里揚州路とらふ事と
ありひあそびて

あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて
あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

あそびの事なれど。今ら雲のやうにもあ
らぬをえ侍りて

侍ねむしーをたふあつーぐうちをー
もつふとやうり

あつひ乃むしーの海もにせられ

あつふあえてありひ出はく

株川くわがわとらふふとちひそくして

こしーちひあつふあつふあつふ

月乃うらふれもゆるやゆらん

江口とらふ株川くわがわある同名也。なれど

をらふちくて。あつふをれを物飼乃くさつと

をらふて

をらふて

物ひひあつひとあつふも又

つと江口乃あつひをりたり

七ツ打程を鏡浦乃小庵まはく院いんま

げ程乃庵ハさつ事五にて。げ二日おまふ

はり侍りあつふとをちやうど院いんとらふ僧乃あつと

かまるとまふ乃ゆりどもまふとくおをれを

しつとあつひ

七日川て乃持是院いんまかくらりひよりと告

三位乃大僧教妙まう様とらふちまらつてありひ

しつとあつひとをまふとくあつとらり正法を

あつひ

十一日法喜乃じまひ城とつゆ池と少く
 志く軍軍このうまてとせり。則毎法うて堀
 乃うちよむれ信教はひよる居る唐馬山居れ
 とまあ成まるひ後軍をまき持佛堂六淨土
 の三勝とともて印せりとたたり。名作乃本
 とともお新。はな唐馬とともあーくた
 法城とつよ二字をと去はり。侍り。安藤
 新守郎利國へ信教乃煙たうら。狂子つ
 せり。ま人の館ふゆきて見侍れをいつくも
 かさたらひて。武具ともとりたうべ。何事も



あらえとまらりち打立るまの用ひの御ま
 々々又風月被舞乃るまをまてまおと
 みえらり。はありて。酒宴乃無試り。か
 とも。美侍法師とつやま。まは。美侍法師も深成
 乃息男生ま九歳たり。回雷の袖とひるま
 とも。まらるま。て。骨とめらり。むら。長
 保乃比奈三奈女院の侍。乃試樂。り。市
 堂の面白乃名男。十歳。れ。ま。て。ま
 と。ま。次男。九歳。り。て。納。利。と。ま
 一。事。お。ひ。出。され。ゆ。り。の。舞。と。ま

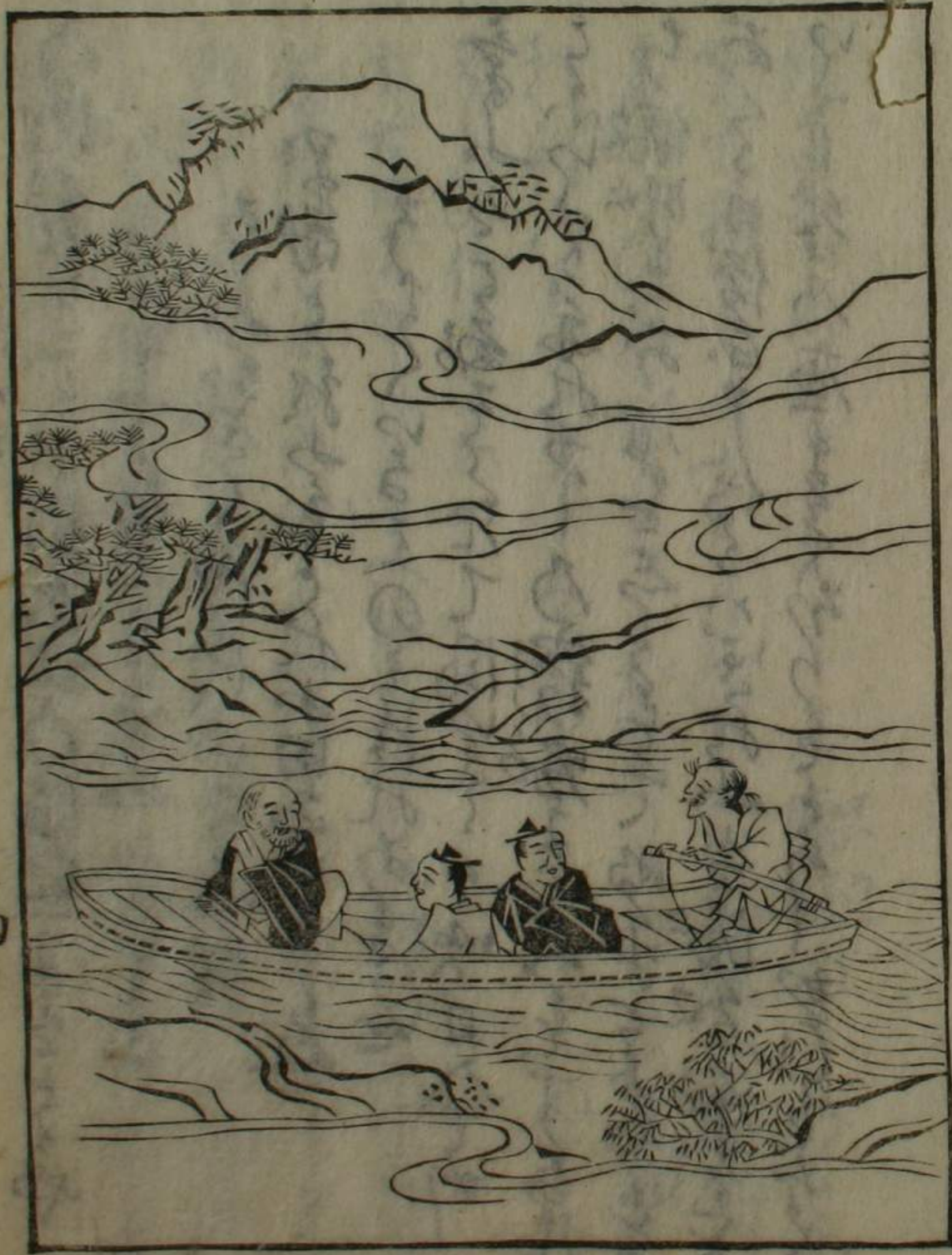
一
 一

舞とて子ばりひはふとてとらるるべし
少子此人のそを月をゆるく人と感歎せし
む新事なるは曲同工とらるる事なりや
十二日猿樂あり。彦松と云ふ猿人なり。一場
をてて後。美作法師又。舞臺より。その袖を
くこと。猿樂より。かみまき。あつし。一人。ま
感し。たり。僧。初。も。真。入。理。り。と。そ。さ。ん。
十二日正法寺。も。く。福。尺。の。程。あり。待。乃。題。ハ
新。尾。破。也。け。祝。る。東。坡。の。待。集。み。え。ま。う。り。や
さ。新。祝。乃。ま。く。あ。也。抑。作。文。乃。去。ひ。り。り。く

等とて。く。を。と。て。お。と。と。も。を。く。勸。修。
な。と。も。ま。れ。と。て。お。ま。と。僧。初。志。を。り。に。と。ま。あ
侍。れ。と。二。十。八。字。や。り。く。去。つ。く。新。と。り。り
な。り。又。方。丈。乃。お。に。二。株。乃。松。と。植。く。二。交
乃。柳。を。く。く。事。あり。と。退。休。也。一。偈。云
就。鳥。峯。正。法。遍。塵。々。靈。藥。毒。人。還。活。人。
五。祖。山。下。誰。作。主。栽。松。道。者。是。前。身。
十四日か。く。く。ま。く。つ。と。海。く。下。向。乃。次。ぎ
西。中。の。乃。西。回。乃。と。と。應。答。人。と。く。く。ハ。侍。れ。と
げ。十一日。細。川。太。京。大。更。後。光。朝。后。卒。去。乃

長光日記

十三



けめえあり。東軍乃梅梁くんれ。とくをれを
 びらるるお國さうひ増起とさうこととやあん
 ちうらを海路おりあやうた敷まど地うらひ
 あるふらうて後會船船とらとともお路程
 をさうらぐねえ僧船よけおさむむとさあ
 物さふむらうらつをれなう

十六日竹乃肉の僧正乃芥見れ庄を一見に
 海さうらうちあはふらうては口よりあひよ
 無さく二里をらう河僧ひよさうおぢいさうをい
 乃よととばさうらる也はひさる奥州より金

ゆふやに八十ともし乃おれうりさう

のちさううのちおれもあしき

持乃魚はとらさうこ持乃ひ乃も縄とあひ

ふ神もとらさうしめて乃さなれをこれ系

くものこくまともまこ又身と借と物

うひひあひらさやもあられ短あし

むとあられなるとくまゆしを

とらさうち持乃たまさあさ鉈とうり火ふ焼て

あつたてあねをうりやささうひなうり

あつたてあね

